

促成いちご収量安定のポイント

いちごは収穫が長期間にわたるため、トータルの収量・収入向上を目指すためには売値の高い時期の高収量だけを目指すのではなく、安定的に収量を維持することが大切です。特に中心的作型である促成栽培では早期収穫(頂果房収穫)後に成り疲れ(中休み)しやすく、中期～後期に成り疲れさせないための栽培管理が必要です。

成り疲れの原因と対策

○初期の肥料過剰

生育初期に過剰に吸収されると草勢過多となり、腋花房の分化の遅れにつながる。

対策 肥効調節型などの緩効性肥料を施用し、生育初期のチツソを控えめにする。

○根の消耗

着果負担により根が消耗し、肥料が残存していても吸収しにくくなる。

対策 地下部の環境を良好に保ち、収穫始期までに健全な根を確保、維持する。

○低温の影響

厳寒期は低温により草勢が低下する。

対策 加温、電照、炭酸ガス施用により草勢を維持する。

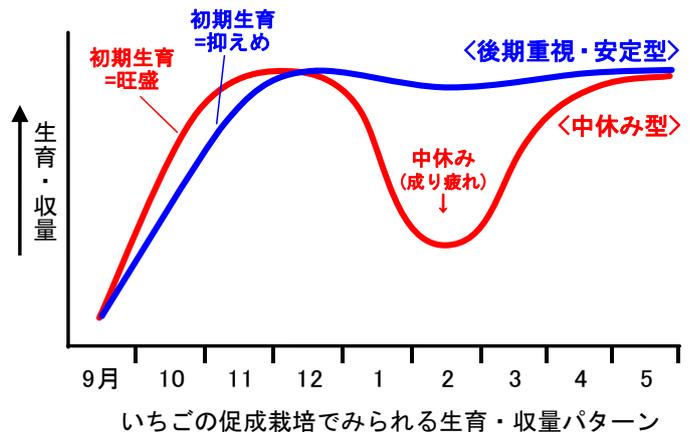
○花芽過剰

過度の花芽分化で着果負担が大きくなる。

対策 適度に摘花する。

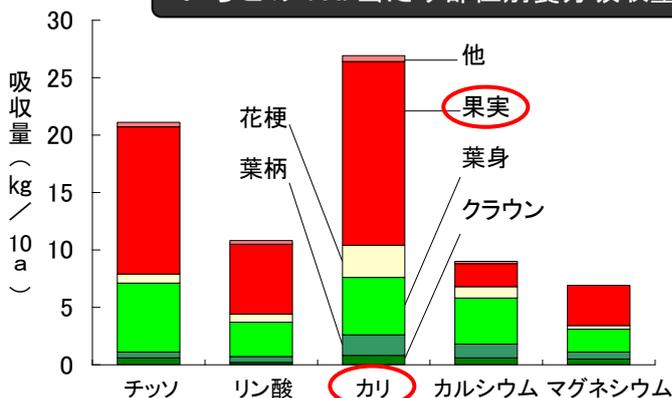


成り疲れのいちご



生育は初期を抑えめに、後期重視が理想的です。

いちごの 10a 当たり部位別養分吸収量 (栃木農試, 1996)



いちごは肥料成分の中で カリを最も多く吸収します。カリは特に果実に多く吸収され、果実の肥大に重要な働きをしています。

農文協「野菜の施肥と栽培 果菜編」より



◎ いちごの長期収量安定には「けい酸加里」を施肥し、健全な根の確保と根の活力維持に努めましょう。

いちごの根づくりとカリの補給に「けい酸加里」

○いちご栽培でのけい酸加里の効果

根張り促進と活力維持の事例(2009)

栃木県那珂川町 JA なす南管内生産者
定植 9/2 収穫 11/20~5/28 根量調査 6/4

本年のとちおとめの促成栽培は天候不良により、例年に比べこの地域は全体的に収量が悪かった。しかし定植前にけい酸加里を全層に60kg/10a施肥した生産者は平年並みの収量を確保した。

<生産者のコメント>

栽培後半は葉にカリ欠乏の症状が現れ、下葉の枯れ上がりも多くなったが、けい酸加里を施用したハウスではそれらの症状は見られず、根の活力維持が収量安定につながったのではないかと。



地下部 乾燥物重 対照区 10.2g けい酸加里区 21.8g



○けい酸加里でカリを持続的に補給

けい酸加里のカリ成分は長期間肥効が持続するため、果実肥大に必要なカリを途切れることなくいちごに供給します。また硫酸分を含まず、根にストレスを与えません。

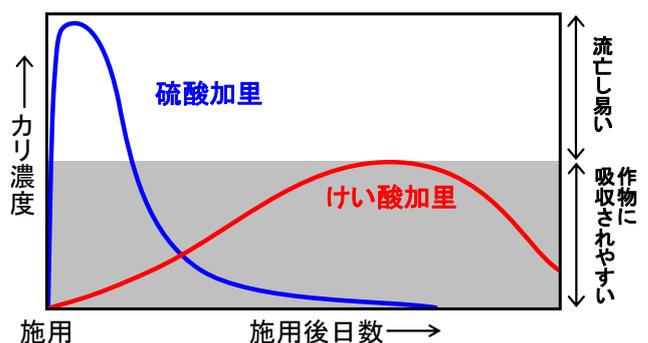
けい酸加里の肥料成分

保証成分(%)				含有成分(%)	
く溶性加里	可溶性けい酸	く溶性苦土	く溶性ほう素	石灰	鉄
20	34	4	0.1	7~12	2~5

けい酸加里の使い方

施肥量(10a当り)	施肥方法
40~80kg	定植前に全面またはうねに沿って散布し、土に良く混和する。

※土壌診断結果に基づき適宜増減して下さい。



けい酸加里のカリは長期間緩やかに効きます。